

2013/5/22

公益財団法人庭野平和財団 御中

2012 年度事業 事業報告書

平成 25 年 5 月 22 日

特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター

■ 事業概要

本プロジェクトは、地域 NGO の持続的な組織運営の促進とファンドレイジング力の向上を目的とし、2012 年度から 3 カ年計画の予定で開始した。主に、地域の様々な『縁（えにし）』を活かしながら持続的な組織運営を模索するとともに、ファンドレイジング及び支援者拡大など、現在、多くの地域 NGO が抱える課題について改善策となりうるような参考情報・事例をつくることを目標とし実施した。

本プロジェクトは、以下の 3 つのテーマを柱に実施した。

- 1) 調査分析 . . . 地域の NGO が、ファンドレイジングの向上や支援者拡大に関する取り組みにおいて、地域の「縁」とどのように関係を構築し、それを活用しているかを調査・分析する。
- 2) 事例化 . . . 上記 1) の調査分析をもとに、地域の NGO が自団体を取り巻く「縁」を活用したアクションプランを作成・実践し、モデル事業をつくる。
- 3) 事例の普及 . . . 上記 2) の事例を普及させるための場を設け、且つ、地域の NGO がファンドレイジングの向上や支援者の拡大に取り組む際に参考となる情報・学習ツールを提供する。

本プロジェクトのスケジュールは、以下のとおり。

		2012 年度				2013 年度				2014 年度
		4 月 ~	7 月 ~	10 月 ~	1 月 ~	4 月 ~	7 月 ~	10 月 ~	1 月 ~	
1 年目: 調査分析	対象地域・協力団体 NGO の選定	● →								
	協力 NGO に対する調査(4 団体)		● - - - →							
	座談会の開催(首都圏と地方にて計 2 回開催)			● - - →						
	アクションプランの作成			● - - - →						
2 年目: 事例化	アクションプランの実践					● - - - - →				
	アクションプランの共有					● - - - →				
	普及媒体の制作					● - - - - →				
3 年目: 普及化	他地域への普及 (予定)								● - - →	

■ 本プロジェクトを開始するにあたり

1) 対象地域と協力団体の選定

本プロジェクトを開始するにあたり、まずは本プロジェクトを実施する対象地域の選定から始めた。対象地域の選定の際のポイントとして、多くのNGOが活動し、尚且つ、行政機関を含む様々なセクターとNGOの連携が取り組まれている地域を選定した。結果、①神奈川県と②静岡県・愛知県を跨ぐ中部地域の2か所を、本プロジェクトを実施する対象地域とした。

次に、対象地域内で本プロジェクトへ協力してくれる協力団体NGOの選定を行った。協力団体の選定に際しては、「地域社会と積極的に連携を図ろうとする団体で、且つ、実際にこれまで様々なアクターとの連携に取り組んできている、又は今後目指そうとしている団体」とし、対象地域ごと以下2団体を選定した。

神奈川	中部地域
WE21ジャパン	アジア日本相互交流センター（ICAN）
地球市民ACTかながわ／TPAK	カレーズの会

2) アドバイザーの選定

また、本プロジェクトでは対象地域ごとにアドバイザーを選定し、協力団体NGOが自団体の調査分析・事例化を行う際に適時アドバイスを受けることとした。アドバイザーの選定においては、特に、ファンドレイジング等に関する知見をもつ有識者、以下2名の方に依頼した。

神奈川県 菅文彦（コース・アクション代表、JANIC理事）
中部地域 下澤嶽（静岡文化芸術大学教授、JANIC理事）

以上、本プロジェクトを実施する対象地域、協力団体NGO、及びアドバイザーについては、以下のとおり決定し、本プロジェクトを開始した。

対象地域	協力団体	アドバイザー
神奈川県	(特活)WE21ジャパン (特活)地球市民ACTかながわ/TPAK	菅文彦（コース・アクション代表、JANIC理事）
中部地域	(特活)アジア日本相互交流センター（ICAN） NGO カレーズの会	下澤嶽（静岡文化芸術大学教授、JANIC理事）

■ キックオフ・ミーティング

各対象地域において調査分析を開始するにあたり、対象地域ごとにキックオフ・ミーティングを開き、関係者全員で本プロジェクトの趣旨を確認した。主には、調査の目的と方法、アクションプランの作成の仕方について確認すると共に、各協力団体NGOが現状抱える問題についても共有し、今後、本 Proj

エクトを通してどのような成果を期待しているかについても関係者間で意見交換を行った。

<中部地域>

- 日時： 2012年6月20日
 場所： 静岡文化芸術大学 下澤研究室
 参加者： ICAN：吉田
 カレーズの会：小野田、永井
 アドバイザー：下澤
 JANIC事務局：松尾、松原
 内容： ① プログラムの趣旨説明
 ② 調査分析の目的・方法について
 ③ 全体スケジュールについて
 ④ 現在抱える課題の共有



上図：中部地域でのキックオフ・ミーティングの様子（場所：静岡文化芸術大学 下澤研究室）

<神奈川県>

- 日時： 2012年7月12日
 場所： 神奈川県民ホール
 参加者： 地球市民 ACTかながわ/TPAK：伊吾田、近田
 WE21ジャパン：贊川、森田
 アドバイザー：菅
 JANIC事務局：松尾、松原、王
 内容： ① プログラムの趣旨説明
 ② 調査分析の目的・方法について
 ③ 全体スケジュールについて
 ④ 現在抱える課題の共有



上図：キックオフ・ミーティングの様子（場所：神奈川県県民サポートセンター）

■ 調査分析

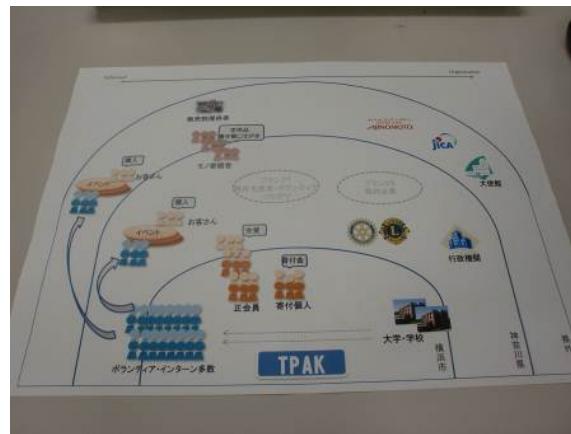
1) 調査分析： 神奈川県

調査の概要：

神奈川県では、アドバイザーである菅氏が、各協力団体 NGO へ直接訪問し、資金調達・支援者動向を分析するためのワークショップを実施した。ワークショップには、各団体とも理事・ボランティア・会員など団体に関係している様々な層の方に参加してもらい、資金調達や支援者拡大の傾向について意見交換を行う中、ステークホルダー・マップを作成した。その上で、地域の「縁」との繋がりの可能性についても意見交換を行った。



上図：アドバイザー：菅氏と TPAK 関係者とのワークショップの様子（場所：地球市民 ACT かながわ/TPAK 事務所にて）



上図：ワークショップにて作成したステークホルダー・マップ

ステークホルダー・マップについては、別紙参照

2) 中部地域：調査分析

調査の概要：

中部地域では、アドバイザーである下澤氏の指導のもと、各協力団体 NGO で支援者向けアンケートを実施することとなった。主にアンケートでは、会員や寄付者、ボランティア等、各協力団体 NGO が支援者とどのような接点が設けているかを調査する内容のアンケートを作成した。



上図：アドバイザーの下澤氏より、アンケート調査についてのアドバイスを受ける（場所：静岡文化芸術大学）



上図：アンケート調査に関する意見交換の様子

アンケート結果の詳細は、別紙参照

4) 座談会

神奈川県において、地域との繋がりを意識しながら活動を行っている団体の方に集まつていただき、座談会を開催した。座談会の概要は以下のとおりである。

開催日時：平成 24 年 12 月 10 日(月)17:00～

参加者：以下、計 10 名

<協力団体> 賢川・森田(WE21 ジャパン)、伊吾田(地球市民 ACT かながわ/TPAK)

<一般参加> 小俣典之(特定非営利活動法人横浜 NGO 連絡会 代表)

斎藤保(株式会社イータウン 代表取締役)

土屋真美子(特定非営利活動法人アクションポート横浜 理事)

中西悦子(パタゴニア 日本支社)

<アドバイザー> 菅文彦(合同会社コーズ・アクション 代表)

<事務局> 松尾・松原(JANIC)

場所：港南台タウンカフェ

内容：地域との連携・協働のあり方について意見交換



上図：地域との繋がり方について、参加者間で意見交換を行う
(場所：港南台タウンカフェ)



上図：地域との繋がり方について、参加者間で意見交換を行う
(場所：港南台タウンカフェ)

当日は、企業関係者から 2 名、NGO 関係者から 1 名、NPO 中間支援組織から 1 名に参加いただき、協力団体・アドバイザー・事務局を含め計 10 名が参加し実施した。主に、座談会では、地域アクターとの連携や協働のあり方について意見交換を行い、且つそれぞれの団体の実績、連携の際に意識していること・課題などを共有した。

座談会の中では、以下のような意見が出された。

- ・ NGO の活動の場合、受益者は途上国の現地の人々であるので、どのように地域と繋がり、関係性を築いていくのか。今後の大きな課題である。
- ・ 地域の人と NGO 接する機会を増やし、双方の互いへの理解のずれを避けるべきである。
- ・ NGO の途上国での支援活動の経験を通して、地域の人たちと交流できる場をもっと多く作れるとよい。

- 物と金の交流だけではなく、人的マッチングもある。例：Patagonia の社員は有給で、NGO/NPO でインターンをするプログラム（120 日）がある。NGO/NPO が持っている地域の知識とノウハウを勉強して、会社に戻ってそのノウハウを活用するという取り組みを行っている。人的なつながりは、具体的なモノ、寄付同様に、持続的な組織運営に寄与すると思われる。

最後に： 課題・今後のスケジュールについて

年度途中に本プロジェクトの進め方を再検討し大きく変更したとは言え、1年目計画の中で予定していた「アクションプラン作成」及び「共有会開催」が次年度計画へ延期とした点が、1年目事業の反省点である。（アクション作成・共有会実施費用 419,751 円を次年度繰越予定）。

本プロジェクトの開始時に各対象地域でキックオフ・ミーティングを実施し、関係者間で本プロジェクトの趣旨・目的の確認を行ったものの、調査分析に予定よりも時間を要し、調査分析→座談会→アクションプラン作成までの作業プロセス・スケジュールを当初計画通りに実施することが出来なかった。

本プロジェクト 2 年目計画を進める上で、上記の課題を改善するとともに、以下の 3 点について注力して取り組みたい。

- アクションプランの実践を通して、各協力団体 NGO が地域の縁とどのようにして関係性を築いたかがわかるように、Before & After を可視化する。
- 協力団体の調査分析、アクションプランの実践が、他の団体にとっても有益な参考情報となるよう取りまとめ、他地域への還元を見据えながら活動する。
- 調査分析やアクションプランなどの成果物を Web 上で戦略的に公開し、多くの NGO に提供できるようにする。

◆◆◆ ウェブサイト・リニューアル ◆◆◆

● 実施概要

NGO のマネジメントスキル向上と学習ツールの普及を目的とし、昨年実施した「次世代リーダー育成研修・全体共有会」の開催風景を You Tube 画像に変換し、ウェブサイトに掲載した。画像以外にも、2010 年度の事業にて実施した NGO 次世代リーダー研修・評価事業報告書や、「NGO マネジメント・テキスト」などの学習ツールも、より多くの方に活用してもらえるように、上記画像と同様にウェブサイト上に掲載した。

● 実施内容

- 「NGO 次世代リーダー研修事業」を含む JANIC が提供する NGO 向け研修事業の情報を、より見やすく、効果的に発信できるよう、ウェブサイトのデザインを修正した。
- 「NGO 次世代リーダー研修・全体共有会」の画像を、本研修事業に参加できなかつた NGO スタッフ、又は本研修に参加された方も研修内容を振り返ることができるよう、閲覧できるようにした。

● 今後の課題

- ・ウェブサイト上に画像を掲載しているものの、アクセス数が伸びていない。
- ・今後は、告知方法の改善や画像の活用を含め、NGO 次世代リーダー研修を通じて作成した様々な学習素材を、効果的に活用できるような施策を検討したい。

以上